

剣淵町長 早坂 純夫



希望に満ちた新春を迎えられた町民の皆様から挨拶申し上げます。日頃から町政に対する深いご理解とご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年の天候推移は、冬は積雪量が過去に例のない積雪となり、春先の融雪が心配されましたが、比較的順調に推移し春耕期の時き付けも進みました。しかし、豆類は霜による被害により、一部時き直しをすることとなりました。

このころから、異常気象の兆候が始めており曇天と蝦夷梅雨ともいえる不順な一年となりました。昨年の作柄にも影響することになり全般にわたり例年を下回る結果となったことは残念でなりませんし、本年の天候が穏やかに推移することを願うものであります。

災害においては、台風が数回にわたり道北地方を避けるようにして北

海道に接近する状況でもありました。極めつけは、震度7といわれる北海道胆振東部地震であります。剣淵町も震度4の揺れを観測しました。

幸い町内家屋の倒壊は免れましたが、全道的なブラックアウトと呼ばれる電源喪失による被害が23時間にも及びました。酪農家の搾乳ができないうことや、バルククーラーの停止及び集荷牛乳の受入停止による被害をこうむることとなりました。

改めて、被災者の皆様にお見舞い申し上げます。町といたしましても、本年の営農に支障をきたさない方策を考えていかなければと考えています。

昨年は、北海道命名150年、剣淵町開基120年、絵本の里づくり30年という節目の年となりました。松浦武四郎が明治政府の命を受け北海道探索の後、命名を「北加伊道」と推挙したことからのことでした。

開基120年では、記念行事や式典、記念表彰等を実施させていただきました。また、「絵本の里を創ろう会」により、絵本の里づくり30年の記念式典も挙行され、改めて民間主導による町づくりの大切さを実感いたしました。

町づくりの基本は、自分で何ができるかを問いつつ、自主性を重んじた社会参加が不可欠であります。町民の皆様の町づくりに対する姿勢にあらためて敬意を表するしだいであ

ります。これからの縮小社会に対応すべく知恵と汗を積み上げなければならぬと考えます。

歴史から学ぶことは大事なことであります。平成28年から制作に取り掛かりました剣淵町史続史二がこの3月末には、完成の運びとなり、町民の皆様披露できることと思っております。

イベント等は、桜まつり以外は天候にも恵まれ、屋外での行事が中止されることなく、関係する皆様の熱意により成功裏のうちに終えることができました。

世界の中の日本は、トランプ米大統領の一举一動に翻弄される年でもありました。北朝鮮と韓国の関係が深まり水面下での政策展開がありました。また、自国の貿易収支に重きをおき、アジアの支配力を強めようとする中国に対するけん制など日本の立ち位置が見えない状況で動いているように感じた一年でした。

その陰で、TPP離脱に始まった農産物の輸出攻勢をどうガードするかが課題であります。影響を受けるのは基幹産業である農業でありますから関係団体としっかり対応していかなければと考えています。

昨年の事業の一つには、地球温暖化に伴う環境省の事業を取り入れたことでもあります。平成30年度二酸化炭素排出抑制対策事業として地方公

事業であります。役場庁舎をはじめ13施設を対象として照明器具をLED化するものであり、一部ボイラーも更新いたしました。二酸化炭素排出抑制と省エネにより寄与することで、電力料金を抑制することになります。

交流人口の増加は、観光客も含めて剣淵を訪れていただくことからバウンドに伴う場合も含まれます。これまで実施してきました、剣淵紹介の絵本を使用しているPRでは、タイ国に開設したごさんこプラザや旅行関係者等に高橋はるみ知事自ら北海道PRに使用していただくなどの相乗効果を上げています。

町民の暮らしを支えるのは、地場産業振興はもとより、安全と安心であります。住み続けられる環境を整えなければなりません。各種課題を検証し、解決に向けて町としてできることを一つ一つ進めなければならぬと考えています。

今年から、ユニバーサルデザイン対応公営住宅を順次1棟4戸の建設にふみきる考えであります。4戸の内訳は、高齢者等の暮らしを考えた住宅構成となり、高齢者にも対応できる単身・夫婦・親子等の2LDK、家族・子育て世代向けのメゾネットタイプ3LDKとなり4戸の共助コミュニティを想定したものとなります。

地域生活空間の変化に対応するため、町民の皆様の広いご意見をいただき、活力ある絵本の里けんぶちの町づくりを進めたいと考えています。

今年一年、町民の皆様が健康にて、今年こそ五穀豊穡の秋を迎えられますよう祈念申し上げ年頭のご挨拶といたします。

剣淵町議会議長

高橋 一博



町民の皆様明けましておめでとうございます。皆様には2019年の新春をお元気で迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃より町政の推進に特段のご理解とご協力をいただいていることに議会を代表して厚くお礼を申し上げます。

議会におきましては一昨年の12月改選後、新しい議会構成の中、行政の意思決定機関として、その任を果たすべく議員一同努力をして参りました。改めて町民の皆様にはご理解賜りましたことにお礼申し上げます。

次第でございます。

昨年は大雪により、皆様にはご苦労の多い年明けとなりました。春先は融雪もほぼ順調に進み適期に播種作業が終了しましたが、その後の晩霜、長雨、低温日照不足等により、水稲・畑作・野菜等全般に不作であり、農家の皆様の苦勞が報われない年であったことは誠に残念であります。また、日本各地で台風被害や集中豪雨などによる未曾有の大災害が発生し、さらに北海道では9月6日未明の胆振東部地震で多くの尊い人命が失われました。この地震で離島を除き、道内全域で起きた大停電「ブラックアウト」を教訓に、自主防災意識を高め、まさかに対する備えを大切に、防災対策をしていかなければならないと思います。

さて、昨年の本町の農業施策においては、継続事業として道営土地改良事業を始め、農業機械利用事業受託作業機械購入事業や、農地排水機能向上対策事業は農業者の負担軽減に効果を上げていると考えます。また、けんぶち農業ブランド化推進事業は、地方創生推進交付金の認定を受け、キヌア栽培研究事業とともに成果を上げているところです。

費のコスト低減に向けた公共施設二酸化炭素排出抑制設備導入事業（LED化）の取り組みにより、今後、

公共施設における電気使用料の大幅な削減効果、加えて二酸化炭素の排出量が15%以上抑制されることで環境面にも配慮してまいりました。

商工業振興策では、購買促進プレミアム商品券事業、町内購買促進スタンプ事業の継続など、購買力流出防止対策に今後も力を入れていかなければなりません。

本町のメイン施設であるレークサイド桜岡は、赤字経営で非常に厳しい状況ではありますが、会社をあげて努力をしていますので、町民の皆様より一層のご利用をお願いいたします。

国内外では、環太平洋連携協定（TPP）が昨年の12月30日発効されました。加えて日本政府はTPP加盟国11カ国にとどまらず、新規加盟国の拡大に向け、日本が主導する姿勢を見せています。安易に輸出競争力のある国が加盟した場合、日本にとつて農産物の大幅な市場開放を受け入れたTPPの影響がさらに大きくなる恐れがあり、より慎重な論議が必要であります。

今年の10月から消費税10%に引

き上げが予定されており、政府には分かりやすい表示を求めるものがあります。

昨年は北海道命名150年、本町においては開基120年の大きな節目の年でもありました。また、絵本の里づくりが始まり30周年の節目の年でもありました。その活動に敬意を表するとともに更なる前進に期待をするところであります。同じく、昭和59年にマツダ株式会社の本町で耐寒テストを開始、昭和63年にマツダとふれあう会が発足し、30周年を迎えました。剣淵・マツダとふれあう会の今後益々のご活躍とマツダ株式会社のご発展を願うところであります。

町の発展は行政主導でなく、民間の活力が最も重要であります。今後も本町で活躍している多くの団体に支援をしていく考えであります。私たち議会は、町の更なる発展に一致結束し、まい進していく覚悟です。町民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。終わりに、今年こそ豊穡の年であることを願い、更に迎えた年が皆様にとりまして、希望に満ちた年でありますよう心からお祈り申し上げます。